

●/▲ 水稲用軽量培土
(中苗用)

15kg/約33ℓ

かかる稲

～ かるいね～

軽量設計！

苗運びラクラク！

健苗育成！



女性に優しくていいね！



根張りがいいね！

供給 ● ●/▲ グループ **全農**
製造 ● 三研ソイル株式会社

三研粒状培土に比べ、天然有機物を使用することで約50%軽量化（当社比）しています
苗の持ち運びの労力が軽減され作業がラクになります
保水性・透水性に優れ、ゼオライトや天然有機物の効果で根張りが優れます

かる稲の成分量及び使用量

mg/ℓ			高比	充填量(製造時)	1箱当り使用量		1袋当り
N	P	K			床土	覆土	
800	1100	600	約0.45	15kg/約33ℓ	0.9kg/約2ℓ	0.45kg/約1ℓ	約11箱分

◎粒状培土とは特性が異なりますので使用方法及び注意事項をよくお読みください◎

かる稲は天然有機物を配合しているため粒状培土に比べて保水性に優れています 過湿になりすぎないように管理してください

作業手順	使用方法	使用上の注意点
播種	床土詰め 1箱当り厚さ 15 ミリ (0.9kg/約2ℓ) 入れ、表面を均一にします	<ul style="list-style-type: none"> ■箱詰め後、乾燥を避けるため直射日光に当てないでください ■1日以上置く場合は、被覆資材等を使用して乾かさないようにしてください（撥水の原因となります） ■自動播種機で表面に凹凸が出来る場合はかん水量をやや多くして落ち着かせてください
	かん水 約 1 ~ 1.3ℓ かん水します（薬液込）	<ul style="list-style-type: none"> ■全体が濡れているか確認する（床土量を増やした場合は、かん水量も増やしてください）
	播種 指導基準に従って播種します	<ul style="list-style-type: none"> ■水が浸み込んだことを確認してから播種する（出芽ムラや不良苗の原因になります） ■健全でハト胸に揃った種子を使用する
	覆土 種籾がかくれる程度 (0.45kg/約1ℓ) 均一に覆土します	<ul style="list-style-type: none"> ■覆土後のかん水は避けてください
出芽	指導基準に従って出芽します	<ul style="list-style-type: none"> ■覆土の乾燥や持ち上がりがある場合はかん水して覆土を落としてください（覆土に粒状培土を使用すると、出庫時の覆土の持ち上がりが抑えられます）
育苗	緑化・硬化 指導基準に従って過湿や温度障害を受けないように、水管理・温度管理に気をつけてください	<ul style="list-style-type: none"> ■軽量培土は保水性に優れているため、粒状培土に比べてかん水量は約3割程度減らすようにしてください（かん水量が多いと葉色が淡くなる場合があります） ポイント：表面が乾燥しているように見えても、中は湿っている場合が多いです ■プール育苗は粒状培土と同様の管理をしてください
田植え時	根付深さや、かきとり量は適宜調節してください	<ul style="list-style-type: none"> ■苗の補充は早めに行い、滑りが悪い場合にはかん水してください ■水を切る時間を長くすることで苗運搬などの労力が軽減できます

その他の注意点

- ◆雨や直射日光を避け、高温にならない場所、かつ、冬期に凍結しない場所に保管してください。
- ◆未開封品でも翌年度の持ち越しはできませんので全量使い切ってください。
- ◆フレコンバッグから培土が落ちにくい場合は外側から棒で突く等して落としてください。
- ◆ポット育苗には、ポット専用培土を使用してください。
- ◆本品は水稲育苗専用培土ですので他の作物に使用しないでください。
- ◆他の培土や資材との混用はしないでください。生育不良や病害虫等の侵入の恐れがあります。
- ◆育苗トレー等の消毒や、カビ・病害虫等の防除は県の指導基準に従って行ってください。
- ◆育苗作業は病害虫等の侵入のない場所で行ってください。
- ◆育苗初期の培土の乾燥や過湿は、生育不良の原因となりますので、水分管理に注意してください。